

城陽高校図書館だより

ふみくら

2020-No. 3

令和2年10月22日

京都府立城陽高等学校図書館発行

もうすぐ学校祭、

そして今年もハロウィンのプレゼントをします。

10月27, 28日の学校祭にむけての準備で慌ただしい日々を過ごしていることと思います。思い出に残る学校祭になればいいですね。さて、学校祭が終わればすぐに10月31日のハロウィンがやってきます。今年の31日は土曜日なので**1日早い**30日（金）に図書館でイベントを行います。

(1) ハロウィン関連図書の展示、飾り付けを行います。

生徒図書委員会の協力のもとハロウィン関連図書の展示やハロウィンらしい飾り付けを行なっています。今日から実施していますので見に来て下さい。

<ハロウィン関連新着図書の紹介>です。

「ハロウィンの犬」村上しいこ作

おばあちゃんの急病で、ハロウィンパーティに行けなくなったみほちゃんをペットのプードル犬・フリルが「犬たちのハロウィンパーティー」に連れ出します。その祭りを通してみほちゃんは、ハロウィンの意味を知り、病気のおばあちゃんに思いをよせていくようになります。ハロウィンの意味を掘り下げた短編です。



「トリック オア トリート」岡村志満子作

ハロウィンの日に4人の子供達がとっておきの仮装



でいろいろな家をまわります。どんなお菓子がもらえるのでしょうか。暗闇で光るオバケページ付きの楽しい絵本です。

(2) ハロウィンプレゼント

30日（金）にハロウィンプレゼントを配ります！当日に図書館に来て図書を借りて合い言葉を言うとプレゼントがもらえます。（プレゼントはなくなりしだい終了します）

合い言葉は「1日早いハロウィン」です。

（「今年のプレゼントは1日早い」「今年は1日早いです」など「1日早い」という言葉が入っ



ていればOKです。)

借りた図書は読んでみよう！ すてきな図書との出会いがありますよ。

10月27日（火）から11月9日（月）は『読書週間』です。

学校祭が始まる10月27日から2週間は読書週間といわれています。今回は読書週間の歴史を紹介します。

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはかわりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」

『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定され、今年から「読書週間」に改題し、読書週間を待っています。

（公益社団法人 読書推進運動協会）



今年の読書週間の標語は

「ラストページまで駆け抜けて」です。

以下は標語を作った野呂美由紀さんのメッセージです。

「物語に引き込まれラストまで駆け抜ける。早く走り抜けても、のんびり歩いても。

本は自分のペースで読み進められます。道のりが困難でもゴールは待っていてくれる。

あなたを待っている物語がきっとあると思います。」

